

令和2年度 第3回金沢市入札制度評価委員会の審議概要

| | | | |
|--------------------------|--|----|--|
| 開催日及び場所 | 令和2年11月25日(水) 金沢市役所 第2委員会室 | | |
| 委員 (委員数5名) (出席数5名) | 委員長 米田 満(公認会計士) 委員 松本 樹典(金沢大学教授) 委員 本間 学(金沢大学准教授) 委員 西村 督(金沢工業大学教授) 委員 栗田 真人(弁護士) | | |
| 次第 | 1 開会 2 審議案件 (1) 工事等に係る入札・契約手続きの運用状況等について ア 令和2年4月1日から令和2年10月31日までに係る本市発注工事及び工事関連委託業務の結果について イ 入札参加資格停止の運用状況及び談合情報への対応状況について (2) 工事成績評点の入札参加資格要件での活用について (3) 委員があらかじめ抽出した案件に係る業者選考等の経緯について (令和2年4月1日から令和2年9月30日) 3 閉会 | | |
| 抽出案件 | 5件 | | |
| 工事 | 制約付き一般競争入札 | 2件 | ・ 水道基幹管路耐震化事業(2-7工区)配水本管及び配水管改良工事 ・ 金沢市立犀桜小学校校舎新築工事(建築工事) |
| | 随意契約 | 1件 | ・ 戸室リサイクルプラザ高速破砕機高圧電動機修繕工事 |
| 委託 | 制約付き一般競争入札 | 1件 | ・ 泉野々市線橋梁予備設計業務委託 |
| | 指名競争入札 | 1件 | ・ 松村5丁目雨水管実施設計業務委託 |
| 審議内容 | 別紙のとおり | | |
| 委員会による報告 又は意見の具申 | 令和2年度第2四半期の発注工事等に係る入札・契約手続きの運用については、適正に行われていると判断する。 | | |

(お問合せ) 〒920-8577 金沢市広坂1丁目1番1号
金沢市総務局監理課 工事契約係
電話:076-220-2101

委員からの意見は、概ね次のとおりであった。

工事及び委託業務の業者選考等が適正に行われていることを確認した。

このコロナ禍において、入札契約手続きに係る電子化についてもスピード感を持って積極的に取り組んでほしい。また、担い手確保対策や働き方改革の取り組みも継続的に進めていくべきと考える。次年度の制度見直しについては、国や県の状況も踏まえ、さらに検討していただき、これらの取り組みを具現化してほしい。

意見の詳細は、次のとおり。

| 質 疑 ・ 意 見 | 応 答 |
|---|---|
| <p>1 工事・委託業務に係る入札・契約手続きの運用状況等</p> <p>○ 入札契約手続きに係る電子化について、具体的にどのような施策を考えているか。</p> | <p>・ 電子入札について、これまで工事と建設コンサルタント業務を対象に限定していたものを、役務・物品契約全般への導入拡大を考えている。</p> |
| <p>2 委員があらかじめ抽出した案件に係る業者選考等の経緯について</p> <p>水道基幹管路耐震化事業（2-7工区）配水本管及び配水管改良工事</p> <p>○ 参加者10者のうち6者が辞退しているが、この原因は。また、残り4者のうち2者が最低制限価格をわずかに下回って応札し失格となり、最終的に98%と高い落札率で落札されているが、制度上やむを得ないものなのか。</p> <p>金沢市立犀桜小学校校舎新築工事（建築工事）</p> <p>○ 落札率が99%と非常に高いが、原因をどう分析しているか。また、本工事は契約後VE方式の対象工事であるが、これによる技術提案が採用された場合には、総合評価において加点対象となるのか。</p> <p>戸室リサイクルプラザ高速破砕機高圧電動機修繕工事</p> <p>○ 定期修繕ではない分解修繕工事ということだが、この時期に実施する必然性があったのか。</p> <p>泉野々市線橋梁予備設計業務委託</p> <p>○ 競争性が働き、適正な入札結果になっていると思われる。</p> <p>松村5丁目雨水管実施設計業務委託</p> <p>○ 落札者が最低制限価格付近で応札している一方、他の参加者は予定価格付近で応札している。両極端の結果となった原因をどう考えているか。</p> | <p>・ 工事場所が幹線道路であることから、地下埋設物が多いこと、また、夜間工事で作業上の制約が多いことに加え、昼間工事に従事している技術者の兼務が困難であること等から辞退者が多かったと推察している。 本工事は最低制限価格適用案件のため、当該価格を下回れば失格となる。ダンピング防止や品質確保を目的とした制度であり、制度内での適正な入札結果であると考えている。</p> <p>・ コロナ禍において、資材価格の高騰や建築に携わる職人の人件費の上昇が建築費を押し上げたこと、今年度は大規模な建設工事が多数発注されていること等が影響し、このような結果に至ったと考えている。 現在のところ、契約後VE方式での技術提案の採用実績は1件のみであり、総合評価方式での加点項目としては設けておらず、今後の動向を注視していきたい。</p> <p>・ 当該設備は平成15年7月から稼働しており、約17年が経過している。設備の現状は、軸受けからオイル漏れが発生している状況で、軸受けの製作には受注生産で10カ月以上かかることから、長期間破砕処理が不可能となる事態を回避するため、今回修繕工事を行ったものである。</p> <p>・ 今回の業務は、昨年度実施した基本計画策定業務に基づいて設計を行うものである。落札者は前回業務の受注者であり、現地状況を熟知していることから、他社より低い価格で応札したと考えられる。また、落札者その他の参加者との応札金額自体に大きな差はなく、手持ち業務との関係等からこのような結果に至ったと推察している。</p> |